

「母の愛は脳を育む」三つ子の魂百まで

幼若期に母親の養育行動を十分に受けたネズミは、成長後に行動が落ち着き、過剰に攻撃したり、怖がりしたりしなくなります。また、ストレスに対する抵抗力がつかます。さらに、老齢期になっても脳神経細胞の脱落が少なく、認知機能が低下しにくくなります。

<参考図書:山元大輔「脳が変わる!？」羊土社, 1999>

「幼児期の言語機能に及ぼす模倣運動の影響」

現代の子供は室内でのゲームばかりが増え、時間・空間・仲間の三つの「間」が少ないため、運動・遊びの機会が減ってきています。そのため、体力・運動能力は低下する一方です。

運動は体力だけではなく、知能の発達も促します。大森研究室では、3歳の保育園児に週3回、3か月間の模倣運動を行ってもらいました。その結果、模倣運動を行った群は行わなかった群と比べて、言語検査得点の伸びが大きいことが分かりました。

<第58回日本体力医学会大会(2003) 寺本らの発表データより>

「礼法指導を伴うテニス教室が子供の感情とストレスマーカーに及ぼす影響」

マナーキッズ®テニス教室の後に「混乱」が低下、「活気」が上昇しました。

<第64回日本体力医学会大会(2009) 大森らの発表データより>